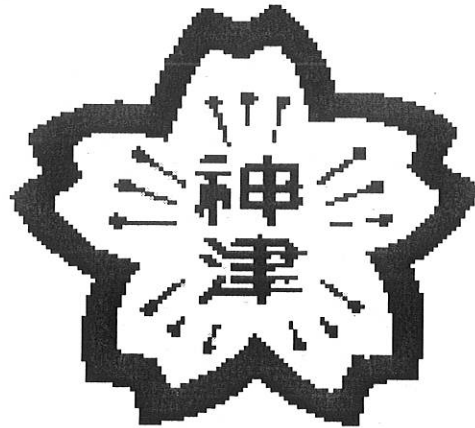


令和5年度

「運営に関する計画」



大阪市立神津小学校

令和5年4月

大阪市立神津小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校の現状から喫緊の課題のひとつに学力の向上がある。一昨年度から国語科を研究教科とし3年計画で校内研究をおこなっており、今年度が最終年である。今年度は研究主題を「生きてはたらく言語力の育成をめざして～コミュニケーション力を育てる国語科指導法の工夫～」とし、「読むこと」の指導を中心に、「交流」を軸として「コミュニケーション力」を育む指導法の研究を進めていく。

児童一人ひとりに合わせた指導として、放課後学習（チャレンジ学習）、ICT機器・タブレットを活用した授業、デジタルドリルの使用、理科等の専科指導の充実、習熟度別少人数授業など工夫改善に努めている。漢字の日を設け、漢字検定を実施し、漢字学習に意欲的に取り組むことができるようも支援した。さらに、児童の読書活動の充実、補習充実事業を活用した図書室での学習、増加する帰国・来日児童に対応するため、日本語指導のサポートの実施等もおこなった。その結果、子どもたちの興味関心を引き出すだけでなく、より深い学びができたと思われる。学校教育アンケートでは、「授業がわかりやすいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は90%（前年度87%）と回答しており、昨年度よりは3ポイント上昇した。今後は学力経年調査や全国学力・学習状況調査等の正答率にもアンケート結果が結びつくように、家庭学習や基礎学力の定着はもとより、教員の授業力向上と授業改善にさらに努めていく必要がある。

次に児童の自己肯定感が低いことが本校の長年の課題である。そのため、児童の頑張りを認め、励ます姿勢を大切にしてきた。今後も規範意識の醸成に努め、さらに、あいさつや清掃、ボランティア活動など、学校での取り組みを通して自己肯定感や自己有用感を育ませるよう意識して取り組んでいく。学校教育アンケートの中で、「学校のきまりを守っている」という肯定的な回答が87%であった。当たり前のことがきちんとおこなえる凡事徹底を図る指導を引き続きおこない、児童会活動の活性化による達成感や成就感、神津体操の実施および立腰教育による体力の向上、集中力や忍耐力を育ませる取り組みをおこない「折れない心」を育成する。これらの取り組みによって児童のやる気や自主性を引き出し、学習意欲に結び付け、学力の向上へと繋げていかせる。また、学校ホームページの充実、地域や保護者との連携、オープンスクール、徳育教育、コロナ禍により滞っていた行事なども新たに見直し、地域とともに歩む学校として新たな取り組みも進めていく必要がある。

以上のことから本校の現状として、教職員が児童のやる気や興味・関心、疑問をうまく引き出し、自らが課題に主体的に取り組み、最後まであきらめずにやり遂げる力を育てることが大切であると考えられる。よって、授業力向上による学習の基礎基本の定着と、さまざまな経験や体験を通して非認知能力を高めること、そして、児童に寄り添い、意識改革と潜在的能力を引き出し、伸ばしていけるような取り組みを進めていくことが課題である。

そして、教職員が心身ともに健全であるために、時間外労働の軽減をはかり、休暇の取得を促進させる等の働き方改革も課題である。昨年度は業務内容の見直しや「ゆとりの日」の設定などを実施したが、市平均以上の時間外労働時間数となった。引き続き、校務や会議でのICT活用など、さらなる工夫と教職員の意識改革もこれからの課題の一つである。

中期目標（令和4年度から令和7年度までの4年間で達成をめざす成果目標）

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 90%以上にする。（令和4年度は、75%）
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
 - ※ 前年度不登校であった児童のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握。
 - ※ 改善とは、次の状態の場合をいう。（複数に該当する場合、最も顕著な項目を選択する）
 - 1 出席日数の増（学校内外でICT等を活用した学習活動を行うことによる出席認定含む）
 - 2 ICTの活用による、本人・保護者と学校がつながった回数が増えた。
 - 3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 25%以上にする。（令和4年度は、31.5%）
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1ポイント向上させる。
- （令和4年度の対全国比）

○ 国語	3年	0.85	4年	0.94	5年	0.99	6年	0.98
○ 算数	3年	0.89	4年	0.90	5年	0.96	6年	1.09
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。（令和4年度は、57.2%）
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 50%以上にする。（令和4年度は、67.6%）

【学びを支える教育環境の充実】

- 学習者用端末を活用した学習を週1回以上実施する。
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を 70%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小学校）

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 90%以上にする。（令和4年度は、75%）
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校の年度目標

- 年度末の校内調査において、児童の自己肯定感を問う項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。（令和4年度は、74%）
- 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 85%以上にする。（令和4年度は、84%）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小学校）

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 25%以上にする。（令和4年度は、31.5%）
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント向上させる。
- （令和4年度の対全国比）
- 国語 3年 0.85 4年 0.94 5年 0.99 6年 0.98
- 算数 3年 0.89 4年 0.90 5年 0.96 6年 1.09
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。（令和4年度は、57.2%）
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 50%以上にする。（令和4年度は、67.6%）

学校の年度目標

- 小学校学力経年調査における標準化得点において、大阪市平均との差を前年度より 0.5 ポイント向上させる。（令和4年度は、1.7 ポイント向上）
- 年度末の校内調査において、「学校でよく体を動かそうとしています」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。（令和4年度は、86%）

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小学校）

- 学習者用端末を活用した学習を週1回以上実施する。
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を 70%以上にする。

学校の年度目標

- ゆとりの日を週に1回設定・実施する。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立神津小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】 全市共通目標(小・学校) ○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を <u>90%以上</u> にする。(令和4年度は、75%) ○ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ○ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 学校の年度目標 ○ 年度末の校内調査において、児童の自己肯定感を問う項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>80%以上</u> にする。(令和4年度は、74%) ○ 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を <u>85%以上</u> にする。(令和4年度は、84%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】 道徳の学習時間をはじめとして、学級指導等あらゆる機会を通じて自己肯定感をもてるような取り組みを行う。 指標 学級において自己肯定感を高めるための実践を年間4回以上行い、学校教育アンケートにおいて、「友だちとの約束を守っています。」「自分にはよいところがあります。」「自分は人の役に立っています。」という3項目を平均して、肯定的に回答する児童の割合を前年度以上ににする。(令和4年度 84%)	
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 児童会活動をはじめとする学校教育活動を通じて、児童が主体的に活動できるような集団づくりに取り組む。 指標 児童が主体的に楽しく取り組める活動を各学年2回、学校全体として10回以上行い、学校教育アンケートの「いろんなことをがんばろうとしています。」という項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度レベルで維持する。(令和4年度 89%)	
取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 課題のある児童と重点的に関わり、毎日、その児童の状態をチェックし、前向きな感情の共有・感情のラベリング支援を通じて児童の心を耕すように努める。 指標 学校教育アンケートの「学校に行くのは楽しいと思いますか」という項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上ににする。(令和4年度 84%)	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況																		
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を <u>30%以上</u>にする。(令和4年度 31.5%)</p> <p>○ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より <u>0.1 ポイント向上</u>させる。</p> <p>(令和4年度の対全国比)</p> <table><tr><td>国語</td><td>3年</td><td>0.85</td><td>4年</td><td>0.94</td><td>5年</td><td>0.99</td><td>6年</td><td>0.98</td></tr><tr><td>算数</td><td>3年</td><td>0.89</td><td>4年</td><td>0.90</td><td>5年</td><td>0.96</td><td>6年</td><td>1.09</td></tr></table> <p>○ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>65%以上</u>にする。(新しい目標)</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>65%以上</u>にする。(令和4年度 57.2%)</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を <u>65%以上</u>にする。(令和4年度 67.6%)</p> <p>○</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 小学校学力経年調査における標準化得点において、大阪市平均との差を前年度より <u>0.5 ポイント向上</u>させる。</p> <p>(令和4年度 大阪市との差が-0.7 ポイントで 1.7 ポイント向上)</p> <p>○ 年度末の校内調査において、「学校でよく体を動かそうとしています」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>85%以上</u>にする。(令和4年度 86%)</p>	国語	3年	0.85	4年	0.94	5年	0.99	6年	0.98	算数	3年	0.89	4年	0.90	5年	0.96	6年	1.09	
国語	3年	0.85	4年	0.94	5年	0.99	6年	0.98											
算数	3年	0.89	4年	0.90	5年	0.96	6年	1.09											

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み書きや言葉の使い方などを重点的に、基礎学力の定着を図る。 ・実験や観察を通して理科の学習に親しむ。 ・反復して練習問題に取り組むことで理解を深められるようにする。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回「漢字の日」を設定し、反復練習を行う。 ・漢字検定試験を活用する。 ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。 	
<p>取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科での話し合い活動において、内容を精選したり、友達の意見を自分にフィードバックする活動を工夫したりする。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育アンケートの「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目に肯定的に回答する児童の割合を、前年度より向上させる。(令和4年度 69.6%) 	
<p>取組内容③【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・C-NETと連携し、児童が楽しく取り組める授業づくりに取り組む。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「外国語(英語)」の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。 (令和4年度 57.2%) 	
<p>取組内容④【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業(国語科、OJT、新任研修等含む)や授業公開、その後の意見交流を通して、教職員の授業力向上に取り組む。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業や授業公開を20回以上実施し、全教員の授業力向上を図る。 ・学校教育アンケート「授業はわかりやすいです」の項目に肯定的に答える児童の割合を前年度と同等に維持する。(前年度 90%) 	
<p>取組内容⑤【基本的な方向5、健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力の保持増進のための場を設け、体幹トレーニングや体づくり運動等に取り組む。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校で考案した「神津体操」を体育の準備運動に取り入れる。 ・15分休みと昼休みには毎日、第2グラウンドを開放する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <p>【ICTの活用に関する目標を設定する】</p> <p>○ 学習者用端末を活用した学習を週1回以上実施する。</p> <p>【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】</p> <p>○ 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を70%以上にする。</p> <p style="text-align: right;">令和4年度:90%</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ ゆとりの日を週に1回設定・実施する。 令和4年度:週に1回設定・実施</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>ICTを活用した学習を推進する。</p> <hr/> <p>指標 学年の実態に応じて、週1回以上（年間40回以上）学習者用端末を活用した学習を行う。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>教員の労働時間の軽減を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議の精選、校務の情報化を進める。 ・ ゆとりの日を週1回設ける。 	
<p>取組内容③【基本的な方向8、生涯学習の支援】</p> <p>読書意欲の向上に取り組む。</p> <hr/> <p>指標 図書館開放を毎日行う。</p> <p>ボランティアによる読み聞かせを毎週行う。</p> <p>学校全体で読書意欲が高まる取り組みを増やす。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

